



孤独な少女との出会いが「家族」の絆を強くする——

深夜ラジオがつなぐ、愛おしく大切な7年間の物語。

1981年、パリ。結婚生活が終わりを迎え、ひとりで子供たちを養うことになったエリザベートは、深夜放送のラジオ番組の仕事に就くことに。そこで出会った家出少女のタルラを自宅へ招き入れる。ともに過ごすなかで「家族」はそれぞれの人生を見つめ直していく……。

夫との別れ、新たな出会い、子供たちの成長——訪れる様々な変化。不安や戸惑いを覚えながらも1歩ずつ前へと進んでいくエリザベートの姿が、観るものの胸を打つ。ラジオから流れる優しい声に耳を傾けるうち、些細な、あるいは平凡にさえ見える出来事こそが人生の一大イベントであり、本当の意味でのドラマチックな変化だということに気づかせてくれる。



Les Passagers de la Nuit

エリック・ロメールを受け継ぎ、人間のあらゆる感情を切なくも優雅に描き出している
—— Filmstarts
最高傑作
シャルロット・ゲンズブールの
Radio France



午前4時に
パリの夜は
明ける

監督・脚本 | ミカエル・アース「アマンダと僕」
出演 | シャルロット・ゲンズブール、キト・レイヨン＝リシ、タルラ、ノエ・アビタ、メーガン・ノートム、エマニュエル・ベアール
2022年 / フランス / カラー / 111分 / ビスタ / 原題: LES PASSAGERS DE LA NUIT / 字幕翻訳: 高部義之
配給: ビターズ・エンド © 2021 NORD-OUEST FILMS - ARTE FRANCE CINÉMA

RISE
@AM4_PARIS FB.COM /AM4PARIS



『アマンダと僕』 シャルロット・ゲンズブール × ミカエル・アース 監督 繊細で力強い、観るものの感情を揺さぶる新たな傑作の誕生!

主人公エリザベートには、フランス映画のみならずトリアー、イニャリトゥ、ヴェンダースといった世界の名だたる監督たちの作品に意欲的に参加し、とどまるところを知らない活躍を見せるシャルロット・ゲンズブール。夫の裏切りに傷つきながらも遅く前にも進む等身大の女性を演じ上げる。エリザベートの人生を左右する深夜ラジオのパーソナリティーには、エマニュエル・ベアールが圧倒的な存在感で魅せる。監督は、前作『アマンダと僕』がヴェネチア国際映画祭ジック・ランタン賞、東京国際映画祭グランプリ & 最優秀脚本賞W受賞を果たしたミカエル・アース。ワールドプレミアとなった22年のベルリン国際映画祭で本作が上映されるや、「監督の計り知れない才能を感じる傑作!」(TROISCOULEURS)と、その繊細で力強い物語に絶賛評が寄せられた。今や次世代を担う監督のひとりとなる。

本作を彩る
1980年代・パリへと誘うキーワード

深夜ラジオ「夜の乗客」
視聴者がスタジオゲストとして出演!
実在した番組がモデルに。

エリック・ロメール『満月の夜』、
ジャック・リヴェット『北の橋』
25歳で急逝した俳優
パスカル・オジェへのオマージュ。
ほかにも数々のアーカイブ映像の引用が。

ジョー・ダクサン「もし君がいなかったら」
フランスの国民的歌手の名曲。
レコードから流れるポップスに身を委ねて。

4/21[金]ロードショー!

オンラインムビチケ 絶賛発売中! ¥1,500 (税込)

銀座4丁目交差点 和光クラ通り 全席指定・入替制

シネスイッチ銀座

03-3561-0707 www.cineswitch.com

JR新宿駅中央東口 徒歩2分 武蔵野ビル3F

新宿 武蔵野館

03(3354)5670
shinjuku.musashino-k.jp

JR渋谷駅八幡口 渋谷ロフト前 三葉ビル7F

渋谷 シネグイント

03-3477-5905
www.cinequinto.com